

1. 黒松内中学校の環境教育

教科学習（学習指導要領から）				総合的な学習 総		学校生活 生
社会 社	理科 理	技術・家庭 技	保健 保	ブナ里	工事関連	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理、自然環境</li> <li>・資源</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気候、観測</li> <li>・天気の変化</li> <li>・エネルギー資源</li> <li>・科学技術</li> <li>・自然と人間</li> <li>・周辺の自然環境</li> <li>・自然の恩恵と災害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術と生活、産業の関わり</li> <li>・技術と環境、エネルギー、資源</li> <li>・室内環境の整備と住まい方</li> <li>・消費生活と環境への配慮</li> <li>・家庭生活と地域（環境、資源）との関わり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体と環境</li> <li>・水、空気と衛生</li> <li>・生活廃棄物と環境保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブナの役割</li> <li>・ブナの植樹</li> <li>・ブナ林観察</li> <li>・ブナの成長記録</li> <li>・北限の謎</li> <li>・ブナ帯文化の衣食住</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存校舎の温熱環境</li> <li>・工法、工程</li> <li>・工事の廃棄物</li> <li>・本稿者の構造断熱工法</li> <li>・熱を体験しよう</li> <li>・校舎工事見学</li> <li>・改修後の校舎の温熱環境調査</li> <li>・エネルギー使用調査</li> <li>・学校周辺緑化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃</li> <li>・ゴミ処理</li> <li>・照明</li> <li>・暖房</li> <li>・換気</li> </ul>

## 2. 環境教育としての組み立て

分野	学習項目 丸字：教科等 太字：体験的学習	環境学習効果
自然環境	社 地理的条件による黒松内の自然環境 理 気候、観測、天気の変化 理 <b>学校周辺の自然環境を調べる</b> 理 自然がもたらす恩恵・災害 総 <b>ブナの役割、ブナ林観察、ブナの成長記録</b>	豊かな自然環境の成り立ちを知る 自然環境を保全することの重要性を認識する 自然環境とブナの関係を知る 地球規模での環境問題 ・自然環境保全への関心、意欲 ・環境を評価する能力
住環境	技 室内環境の整の整え方と住まいの工夫 総 <b>ブナの植樹</b> 生 <b>照明、暖房の生徒による制御</b> 生 <b>日常の清掃</b> 保 身体と環境 保 飲料水、空気と健康の関わり	消費者としての態度を身につける 自ら環境を整える態度を身につける ・問題解決能力 ・主体的思考
地域	技 地域の環境や資源に配慮した生活の工夫、実践 総 <b>ブナ帯文化の衣食住</b> 生 <b>ゴミ処理</b> 保 <b>生活廃棄物と環境保全</b>	地域の生活環境と環境問題について知る ・社会的態度
エネルギー 資源	社 日本の資源やエネルギー 理 人間生活に必要なエネルギー、資源 技 生活や産業の中で技術の果たしている役割（ <b>建物工事 の中でも説明可</b> ） 総 <b>学校のエネルギー使用調査</b> 生 <b>ゴミ処理</b>	エネルギー問題と温暖化を知る ・主体的思考 ・社会的態度

環境教育を実践しているという意識づけ（環境教育オリエンテーション）

3年間のカリキュラムとしての組み立て、

環境教育としての各教科間の連携

地域、専門家の関わり

### 3 . 黒松内中学校の環境教育・人づくり

- ・ 自然と共生し郷土黒松内を愛する子ども達を育む
- ・ 黒松内のシンボル「北限のブナ」や豊かな自然を守る心と活動ができる子ども達を育てる
- ・ 日々の生活の中でエコライフに心がけることのできる子ども達を育てる

参考 教科との関連 (学習指導要領から)

【社会】

(3)世界と比べて見た日本

ア 様々な面からとらえた日本

(ア)自然環境から見た日本の地域的特色

世界的視野から見て、日本は環太平洋造山帯に属し大地の動きが活発であること、温帯の島国、山国で降水量が多く、緑におおわれた国であること、自然災害が発生しやすく防災対策が大切であることといった特色を理解させるとともに、国内では地形、気候などにおいて地域差がみられることを大観させる

(ウ)資源や産業から見た日本の地域的特色

世界的視野から見て、日本はエネルギー資源や鉱物資源に恵まれていない国であること、土地が高度に利用されていること、産業の盛んな国であることといった特色を理解させるとともに、国内では地域の環境条件を生かした多様な産業地域がみられること、環境やエネルギーに関する課題などを抱えていることを大観させる。

【技術家庭】

A 技術とものづくり

(1) 生活や産業の中で技術の果たしている役割について、次の事項を指導する。

ア 技術が生活の向上や産業の発展に果たしている役割について考えること。

イ 技術と環境・エネルギー・資源との関係について知ること。

4) 室内環境の整備と住まい方について、次の事項を指導する。

ア 家族が住まう空間としての住居の機能を知ること。

イ 安全で快適な室内環境の整え方を知り、よりよい住まい方の工夫ができること。

(4) 家庭生活と消費について、次の事項を指導する。

ア 販売方法の特徴や消費者保護について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。

イ 自分の生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活を工夫すること。

(6) 家庭生活と地域とのかかわりについて、次の事項を指導する。

ア 地域の人々の生活に関心をもち、高齢者など地域の人々とかかわることができること。

イ 環境や資源に配慮した生活の工夫について、課題をもって実践できること。

#### 【理科】

##### (4) 天気とその変化

身近な気象の観察、観測を通して、天気変化の規則性に気付かせるとともに、気象現象についてそれが起こる仕組みと規則性についての認識を深める。

##### ア 気象観測

(ア) 校庭などで気象観測を行い、観測方法や記録の仕方などを身に付けるとともに、その観測記録などに基づいて、気温、湿度、気圧、風向などの変化と天気との関係を見いだすこと。

##### イ 天気の変化

(ア) 霧や雲の発生についての観察、実験を行い、そのでき方を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けてとらえること。

(イ) 前線の通過に伴う天気変化の観測結果などに基づいて、その変化を暖気、寒気と関連付けてとらえること。

##### (7) 科学技術と人間

エネルギー資源の利用と環境保全との関連や科学技術の利用と人間生活とのかかわりについて認識を深めるとともに、日常生活と関連付けて科学的に考える態度を養う。

##### ア エネルギー資源

(ア) 人間が利用しているエネルギーには水力、火力、原子力など様々なものがあることを知るとともに、エネルギーの有効な利用が大切であることを認識すること。

##### イ 科学技術と人間

(ア) 科学技術の進歩による成果として新素材などの利用が行われ、日常生活が豊かで便利になったことを知るとともに、環境との調和を図りながら科学技術を発展させていく必要があることを認識すること。

## (7) 自然と人間

微生物の働きや自然環境を調べ、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解し、自然と人間のかかわり方について総合的に見たり考えたりすることができるようにする。

### ア 自然と環境

(ア) 微生物の働きを調べ、植物、動物及び微生物を栄養摂取の面から相互に関連付けてとらえるとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いだすこと。

(イ) 学校周辺の身近な自然環境について調べ、自然環境は自然界のつり合いの上に成り立っていることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識すること。

### イ 自然と人間

(ア) 自然がもたらす恩恵や災害について調べ、これらを多面的、総合的にとらえて、自然と人間のかかわり方について考察すること。

### 【保健】

(2) 健康と環境について理解できるようにする。

ア 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。

イ 飲料水や空気は、健康と密接なかわりがあることから、衛生的な基準に適合するよう管理する必要があること。

ウ 人間の生活によって生じた廃棄物は、衛生的に、また、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように処理する必要があること。